

IOS（包括的矯正歯科研究会）2022年 第1回例会 抄録

ハイブリッド開催

日程：2022年2月13日(日) 11：00～16：45

会場：日本橋ライフサイエンスビルディング

新型コロナウイルス感染症の収束の目処は見えて来ない状況であり不安定な社会情勢が続いておりますが、IOSは会員数61名、賛助企業13社と今年も多くのメンバーに支えられて会を運営できることを大変感謝しております。

また、今年からは正式にオークランド工科大学のZac教授がGlobal Fellowとしてメンバーに加わることが正式に決定しました。一方では、未だに対面での面識のないメンバーも多くいらっしゃる会員のバックグラウンドも様々です。

会員の皆様においては、リモート生活にもなれて来た事と思いますが、リモートの限界も見えて来ました。先日、慶應大学においては対面授業を9割に戻すとの発表がなされました。我々も今年はアフターコロナを見越して全例会を万全の感染症対策を行なった上でのハイブリット開催とすることに決定しました。また、現地参加者限定ではありますが、個別の症例相談コーナーも設置いたします。手探りではございますが、執行部一丸となってIOSを盛り上げて行きたいと思っております。ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い致します。

例会実行委員長 上野博司

タイムスケジュール

- 11：00～11：10 開会挨拶
- 11：10～11：30 代表挨拶
- 11：30～13：30 コンセンサス会議
- 13：30～14：30 お昼休み
- 14：40～15：25 症例発表
- 15：50～16：35 Level UP セミナー
- 16：35～16：45 今後の活動予定、閉会挨拶

* 会場参加参加者限定企画 *

矯正専門医 & IOS Centralメンバーによる個別症例相談会

ビギナーの先生もお気軽にご利用ください

担当：内藤先生 他

コンセンサス会議 11:30~13:00 (13:00~13:30 質疑応答)

演者 包括的矯正研究会 (IOS) Central 高山祐輔 先生
包括的矯正研究会 (IOS) 代表 綿引淳一 先生



「接着の最前線と補綴物への矯正ブラケットのDBSどうするのか？」

矯正治療や一般歯科治療において、日々行われている「接着」は、歯科治療の良好な結果や長期予後を確認するために欠かせない要素である。
今回、接着に影響する因子とその対処法、各種修復材料に対する接着前処理、象牙質接着耐久性の向上に効果的なSLDP (Smear Layer Deproteinizing Pretreatment)、矯正ブラケットのDBS (Direct Bonding System)への応用を含め、接着テクニックや接着材料に関する最前線の知見などからIOSコンセンサスをまとめたい



「包括的に咬合再構成を行った1例」

初診時63歳女性。左下臼歯部歯肉腫脹を主訴に来院。主訴の他にガミースマイルの改善、既存補綴物の再治療を希望されていた。口腔内は下顎前歯以外に全て補綴処置が行われている状態であり、左右上顎臼歯部、下顎右側臼歯部に計8本のインプラントが埋入済であった。主訴である左下八番はブリッジ補綴の支台歯であり、歯根破折により周囲歯槽骨の透過像がレントゲン画像上に認められた。

緊急処置として主訴部位の消炎処置を行い、その後、全顎的な検査診断結果を基に患者の主訴と希望を踏まえ、長期予後を確立すべく治療計画を立案した。本症例では、歯周基本治療、歯内療法処置、歯周外科処置、インプラント治療、アライナー矯正治療、補綴修復治療を順序立て計画し、包括的に治療を行なった結果、審美的、機能的な改善が認められた。

(略歴)

高山 祐輔

新百合ヶ丘南歯科 院長

2004 日本大学歯学部 卒業

医療法人社団同仁会ワタナベ歯科医院勤務

2016 新百合ヶ丘南歯科 開業

(所属)

包括的矯正歯科研究会 (IOS) 会員 Central Member

東京SJCD会員

日本顕微鏡歯科学会会員



「IOSにおけるケースプレゼンテーションについての解説」

ケースプレゼンテーションを行うとき、どんなことをイメージされているだろうか。プレゼンテーションを成功に導くには、参加者にわかりやすく伝えたいことを伝えるテクニックや流儀が必要であると考えている。

例えば患者さんの主訴は何か、どういったケースなのか、問題はどこにあるのか、何を伝えたいのか、などを的確にインフォメーションすることで、参加者にとってとてもわかりやすいものとなる。

歯科臨床において、良質な資料を採得することが的確な診査診断を可能にする第一歩となるが、プレゼンテーションにおいてもわかりやすくその資料を示して、診査診断と治療計画についてを的確に述べるのが肝要である。

会としてそれらが共通項で共有できると、言語が統一されているのと一緒に、きちんと伝わりやすくなると思われる。

今回、IOS例会にてケースプレゼンテーションを行う上で、必要な資料や発表の手順について実際の臨床例を用いて述べ、会員諸兄の参考になれば幸甚である。

(略歴)

上野 博司
上野歯科 院長

1996 日本歯科大学卒業

1999 上野歯科勤務

2006 同院長

(所属)

包括的矯正歯科研究会 (IOS) 会員 Central Member

東京SJCD 会員

日本歯科矯正学会 会員

日本顎咬合学会 会員

2022年 賛助企業一覧（五十音順）

EMS Japan株式会社

株式会社グローバル・エイト

株式会社松風

株式会社ナルコム

株式会社白水貿易

株式会社フォレスト・ワン

株式会社ミツバオーソサプライ

株式会社モリムラ

株式会社ヨシダ

クインテッセンス出版株式会社

ストロマン・ジャパン株式会社

デンツプライシロナ株式会社

ペントロン ジャパン株式会社